

令和元年度 卒業証書授与式 答辞

暖かい陽の光が降り注ぎ、桜の木々が春の訪れを感じさせる今日。私たち卒業生のために、このように厳かで晴れやかな式典を挙げていただきましたことを、卒業生一同 心よりお礼申し上げます。ご多忙の中、ご臨席いただきました来賓の皆さま、校長先生はじめ諸先生方、並びに関係者の皆さま、卒業生を代表してお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

私たちが、信楽高校で共にした三年間は、あっという間のものでした。目を閉じて思い返すと、たくさんの記憶が蘇ってきます。

一年生の春。桜が綺麗に咲く門を前にして緊張や期待をそれぞれの胸に秘め、高校生活が始まりました。初めは静かだったクラスにも、日を重ねるごとに笑い声や話し声が廊下に響き渡り、賑やかになっていきました。「初めて」にあふれた生活は、新鮮そのものでした。

二年生。やっと待ち望んだ東京方面の修学旅行。前日の大型台風により、一日目の午前に予定していた行事は、ほとんどが中止。先が思いやられ、不安を抱いてしまいました。しかし、私たちの前に広がったスカイツリーの夜景はとても美しく、心を癒やしてくれました。ディズニーリゾートでは、たくさんのアトラクションを周ったり、友達と写真を撮ったり、お揃いのグッズを身に纏い、夢の国を満喫しました。夜遅く、話に熱中してしまい、先生の呼びかけに答えず、次の日 怒られたこともありましたが、どれも大切な思い出です。

進路実現に向けた三日間のインターンシップ。それぞれの企業の方に、働くことの大変さや人を思いやる気持ち、人に喜んでもらった達成感など、学ぶことだらけの三日間で、少しずつ自分の進路のイメージをつかんでいきました。

そして三年生。全てに「最後」がつく年でした。最後の体育大会では、今まで指導してもらったり、教えてもらったりしたことを、今度は後輩に教え、伝えていく番でした。同じ団の友達と振り付けや立ち位置を考えて、どうしたらアピールできるだろうか、皆に判ってもらえるだろうか、と試行錯誤しました。

練習を重ねていく中で、後輩が聞いてくれなかったり、仲間内で言いあったりする苦しい日もありました。しかし、本番の景色は今まで見た中で一番そろっていて、とても綺麗でした。

最後の文化祭では、最優秀賞をつかみ取るために、演技指導にも力が入ります。たくさんのクラスが劇をする中で、目立ったり印象に残る演技をしたりすることは、とても難しかったです。それでも、たくさんのセリフを覚えたり、仲間と読み合わせをして、練習を重ねたことで、徐々に完成度が上がっていきました。厳しい演技指導に耐えてくれた仲間、衣装や小道具、背景を描いてくれた仲間にも、感謝の気持ちでいっぱいです。惜しくも、最優秀賞を三年生が取ることはできませんでしたが、切磋琢磨することができました。

一、二年生の演技には驚きました。完成度の高い劇を見せてもらい、来年の演劇がどんなものになるのか気になりました。来年は今年度以上により良いものを目指して頑張ってください。応援しています。

最後の球技大会。シャトルとボール、声援が飛び交う信楽高校。女子は体育館で

バドミントン、男子はグラウンドでドッチボールをそれぞれ学年別で競いました。誰もが夢中になって、寒さを忘れて楽しみました。学年も関係なく、力の差も互角。どのチームが勝つのかハラハラしながら自分の番を待つのは、不安もありましたが、全力を出して競いました。

そして、最後の総合学科発表会。日々の学習や実習について発表する場です。一、二年生は、将来の夢や修学旅行についての発表を、私たち三年生は、セラミック系列とデザイン系列、普通系列に分かれて、卒業課題で制作した陶器や立体造形、古語と英語を使った信高名物の演劇をそれぞれが発表しました。他にも、ロボットを作って大会に出場し、その成果を発表したり、コンピュータを使ったイラストやCGキャラクターについての発表もありました。日常では体験できないようなことも、発表会を機会に触れることができ、新しい発見がたくさんありました。準備に時間をかけただけ、完成度は上がり、達成感を得ることができました。

日々の授業では、隣の子と楽しくおしゃべりをして怒られたり、眠っている友達を起こしたり、テストの範囲を聞きあって勉強したり、何気ないことまでもが思い出されます。

そんな楽しい日々が終わってしまうことを、時の流れが教えています。

後輩の皆さん。頼りなかったかもしれないけれど、私たちの背中についてきてくれてありがとう。体育大会でも、たくさん無理なことを言ったかもしれませんが、それでも、頑張っただけでこなそうとしてくれて、ありがとう。教えることに慣れていない私たちは、とても助かりました。今度は、皆さんが信楽高校を引っ張っていく番です。できないことや、慣れないことをする日が必ず訪れます。困ったときや悩んだときは、一人で抱え込まずに、家族や友達、先生を頼ってください。きっと正しい道へと導いてくれます。後悔しないように、残りの学校生活を、全力で楽しいものにしてほしいと願っています。

私たちを見守ってくださった先生方。毎朝先生の「おはよう」という明るい声で一日が始まります。時には、叱られて「嫌いだ。」と思うこともありましたが、たくさん元気をいただきました。ありがとうございます。毎日、学校が綺麗になるようにたくさんサポートしてくださった用務員さん。定期券の申請などでたくさんお世話になった事務室の皆さん。たくさんの方々にお世話になり、とても感謝しています。

私たちは、先生方にたくさん支えられてきました。間違っただけに進んだときには、心を鬼にして叱ってくださいました。優しさに気付かずに、ひどい言葉で強く当たったこともたくさんありました。進路に悩む私たちに寄り添い、入学試験や就職試験の時には、「あなたならできる。」「自信を持って、大丈夫だから。」と声をかけてくださったおかげで、自信を持って挑むことができました。「あたり前のことをあたり前にすること」「仲間を思いやること」「諦めずに努力すること」先生方は、たくさんのことを私たちに与えてくださいました。そんな先生方が、私たちは大好きです。今まで本当にありがとうございました。

いつも暖かく登下校を見守ってくださった地域の皆さん。たくさんのご支援をいただき、歴史ある信楽で勉学に励むことができたのは、地域の皆さんのご協力があったからだと思っています。私たちにかわり、新たに、信楽高校生が入学してくると思いますが、かわらず温かく厳しく見守っていただけると幸いです。

そして、私たちをここまで育てあげてくれたお父さん、お母さん、産まれてから今まで私たちを育てることは、決して簡単でも楽でもなかったと思います。毎朝

作ってくれた愛情いっぱいのお弁当はとても美味しかったです。いつも笑顔で振る舞ってくれるお父さん、お母さんに、時にはひどい言葉で責めたり、悲しませたり、心配させたこともありました。それでも、何があっても変わらず味方でいてくれてとても感謝しています。進路に悩む私たちに、優しく「好きなようにやりなさい、どんなことでも応援するよ」と言ってくれて、自分の進路と向き合うことができました。これまで優しく、厳しく育ててくれて、本当にありがとうございました。少しずつ恩返しができるように頑張ります。私たちは、お父さん、お母さんの子供に生まれることができ、幸せです。

これまでの三年間、色々なことを一緒に過ごした仲間みんな。休み時間、ストーブや扇風機の周りに集まって色んな話をしたり、時には喧嘩もしました。たくさん泣いたり、笑ったり、喜怒哀楽を共にした時間は、全てが宝物です。たくさんの仲間に出会えて、一生の思い出ができて、私は本当に嬉しいです。

この先、私たちはそれぞれの道に進んでいき、壁にぶつかることもたくさんあると思います。そんな時は、これまでの楽しい思い出や友達的笑顔を思い出して頑張ろう。

みんなと出会えて良かったです。
ありがとう。

私たち五十七名は、信楽高校を卒業します。たくさん勉強に励んだ教室、友と汗を流したグラウンドや体育館。信楽高校生でほとんど埋め尽くされて登下校した信楽高原鐵道。川沿いの道から見えた私たちの通う学校。この信楽高校は、私たちの思い出の詰まった大切な場所となりました。

新元号「令和」となり、新たな時代の幕開けとなった、記念すべき年。「令和」という字は万葉集の梅花の歌から文字が引かれ、「明日への希望と共に、日本人一人ひとりが大きな花を咲かせる」という願いが込められています。新たな年に、私たちは新たな挑戦をたくさんして、たくさん失敗して、最後には素晴らしい華が咲かせられるように頑張ります。皆さんに見守られて過ごした、この場所から新たな世界へと羽ばたきます。

中国から急激に世界へと影響を与えたコロナウイルス。非常に感染力が強く、命を落としている人もたくさんいます。その為、卒業式が行われなかったり、保護者の方、来賓の皆さん、在校生が居ない中での式典だったりする中で、このようにたくさんの方々が集まってくださり、祝っていただいた今日という日を私たちは絶対に忘れません。先生方の努力やたくさんの人のご協力があって、このような盛大な式典を開いていただけて、私たちは本当に幸せです。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

この信楽高校で学んだことを糧に、誇りを持ち、思いやりと優しさあふれる立派な大人へと成長できるよう、これからも頑張って努力し続けていきたいと思えます。

本当に三年間ありがとうございました。

これからの信楽高校の益々の発展を願いまして、答辞といたします。

令和二年 三月一日。

卒業生代表 石本 夢奈